

第39回 温故知新

[まとめ]

～生活文化の伝承と創造～

今回
 学ぶこと

両親が若かった時代や祖父母が若かった時代と今の時代では、生活のしかたはまったく違ったものになっていますが、中には変わらずに残っているものもあります。長く受け継がれる生活の知恵、それが生活文化です。私たちが次の世代に残したい生活文化にはどんなものがあるのか、一緒に考えてみましょう。

知っている？ 今回のキーワード（知っているキーワードは✓チェックマークをつけよう）

- 「温故知新」というのはどんな意味のことばでしょうか？
- 日本の“四季の伝統行事”には、どんなものがあるか？ そして、それぞれの行事にはどんな意味があるか知っていますか？

ポイント 1 変わったもの、変わらないもの

～記録映像で知る時代の変化～

時代が移り変わるスピードはどんどん速くなっていると言われています。私たちの生活がどんなふうに変わってきたのか、実際の映像で確かめられると面白いでしょうが、記録として見られるのは100年少し前くらいまでです。

100年前の東京や大阪の記録映像を見てみると、今の近代的な都市からはとても想像できないような街並みですし、生活です。この百年で私たちの生活のしかたがずいぶん変わったことがわかります。

江戸時代は260年余り続いたと言われますが、江戸時代の初期と後期の変化より、この100年間の変化のほうがきっと大きいでしょう。私たちは激しい変化の時代に生きています。これから社会はどんなふうに変わっていくのでしょうか。

- ① これからの100年で一番変わってしまうものはなんだろうか。変わらずに残るものはなんだろうか。考えてみよう。

ポイント 2 四季と行事

～先祖代々伝えられてきた“食べる、着る、住まう”の文化～

四季に恵まれた日本には、1年を通してさまざまな行事が生

まれ、受け継がれてきました。

例えば、春のひな祭りの起源は平安時代の「ひいな」という人形だといわれています。時代とともに変化して、江戸時代に「ひな祭り」として広がっていきましたが、ミニチュア化された人形の着物や道具類に、当時の人々の暮らしぶりがしのべられます。

夏の祭りや花火大会には、稲の健やかな成長を願ったり、邪気を払うという願いが、そして、秋の祭りにはお米など五穀の収穫に感謝し、来年の豊穡を願うという思いが込められています。大みそかには一年の穢れを清め、正月には神聖な食べ物である餅などを供えて、一年の無事を願いました。

? あなたは年中行事のなかで何が一番好きですか？
それはどうしてでしょう。

ポイント 3 創造はマネから始まる

～やってみよう！知らなかったら新しい～

あなたの地域にはどんなお祭りがあるだろうか？ また、あなたの家族に受け継がれている年中行事にはどんなものがあるだろうか？

何百年という歴史があるお祭りも、町おこしのためにと新しく生み出されるお祭りも、先祖代々家族が受け継いできた行事も、何かのきっかけで毎年続けるようになった家族の記念行事も、どれが一番大切だとか価値があるということはありません。でも、長く続いてきたものにはそれだけ多くの人を引き付ける魅力があったということでもあります。まずはいろんなものに参加して、その魅力を知るところから始めてみると、きっと新しい発見があると思います。

? あなたが次の世代にもぜひ受け継いでほしいと思う生活文化には、どんなものがあるだろうか。次の世代に受け継いでもらえるようにするには、どんな取り組みをしていけばいいだろうか。

今回のまとめ

- ★「生活文化」とは、私たちの毎日の暮らしそのもののことです。
- ★今の暮らしは、昔の人が“より良く暮らしたい”と考え、つくってきたものを受け継いで成り立っています。一人ひとりの生活が「文化」と呼べるようになるには、たくさんの人の努力や想いを経ています。だから、一度消えてしまったら、復活させるのは大変なことです。
- ★「生活文化の“伝承”」とは、昔の文化をそのまま受け継ぐこと。一方、「生活文化の“創造”」とは、次の世代の人が受け継ぎたいと思うようなかたちに変化させてゆくことです。
- ★まずは、自分たちにとって“良いもの”とは何かを見つける目を養いましょう。見つけたら、その生活文化と積極的にかかわることが重要です。

もっと知りたい？ 参考キーワード

- ★日本文化いろは辞典 <http://iroha-japan.net/>
- ★「日本の祭」「年中行事」「昔の遊び」などをキーワードにしてインターネットでいろいろ調べてみよう。



ふだん何気なく行っていることだけれど調べてみると長い歴史があったり、また、昔から変わらずあるものだと思っているものでも案外歴史が浅かったりと、生活の中で受け継がれてきた文化の中には、改めて見直してみると発見がいっぱいあります。でも、油断をしているといつの間にかなくなっていたり……。自分が大切にしたいと思う伝統をしっかりと守り、次の世代にバトンタッチしてゆくこと。ちょっと大げさかもしれないけれど、それが人類の一員である私たちの責任なのかなと思います。今という時代を生きている私たちにしかできないことから。